

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マムの丘		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年 3月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・児童への丁寧な対応と信頼関係の構築 事業所の利用開始時において、運営規定や支援プログラム等について丁寧な説明を行っており、すべての回答者から「理解できた」との評価をいただいている。また、日々の関わりの中でも、保護者・児童双方に寄り添った対応を心掛けており、「前向きに受け止めてくれる」「親子ともに安心して利用できる」といった声が寄せられている。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との面談や送迎時のやり取りを通して、児童の様子だけでなく保護者の思いや困りごとを把握し、心理的な支援も意識している。 児童一人ひとりの特性や発達段階に応じて、活動内容や関わり方を柔軟に調整している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士が交流できる機会(茶話会・情報交換会等)の実施を検討し、子育ての悩みを共有できる場の創出を図る。
2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携・情報共有の充実 学校や家庭での様子について共有いただいた際には、職員が一緒に考え、必要に応じて助言や支援方法の提案を行っている。また、事業所での様子も丁寧に伝えることで、保護者との相互理解を深め、継続的な支援につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭での様子を踏まえた支援を行うため、情報共有を重視し、一貫性のある支援につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援内容や事業所での様子について、より分かりやすく発信できるよう、連絡ツールやお便り・インスタグラムの充実を図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 多様な体験機会の提供と柔軟な対応 外出活動や体験活動を取り入れ、児童が様々な経験を積めるよう支援している点について高い評価を得ている。さらに、送迎についても可能な範囲で柔軟に対応し、利用しやすい環境づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動については、成功体験や自己肯定感の向上につながるよう、段階的な支援や声掛けを意識している。 送迎時間や利用方法については、保護者の生活状況に配慮し、継続利用しやすい環境づくりを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容のさらなる充実を目指し、地域資源の活用や外部との連携を強化する。 職員の専門性向上のため、研修や事例検討を積極的に取り入れ、支援の質の向上を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域との交流機会の不足 保護者同士や地域との交流の機会が十分に設けられていない現状がある。そのため、情報共有や相互理解を深める場が限られている。	<ul style="list-style-type: none"> 日常業務が多忙であり、交流の場や共有の時間を十分に確保できていない。 交流のニーズ把握が十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対してアンケート等を実施し、交流ニーズを把握したうえで機会を検討する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の情報共有のばらつき 支援内容や児童に関する情報について、職員間での共有が十分でない場面があり、支援の統一性に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有の仕組みやルールが明確でない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な職員会議やミーティングの実施により、情報共有の機会を確保する。 記録や連絡ツールを活用し、情報共有の見える化を図る。
3			